
旅?

広崎咲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
旅？

【Nコード】
N5307R

【作者名】
広崎咲

【あらすじ】
私は地球を歩く旅に出た。

私は地球を歩く旅に出た。中国の密林で出会った虎が仲間に加わり、その後、インドで勘違いをしている牛を食い、アフリカでタテガミのセツトに悩むライオンにギャツビーを与え、現在、イギリスに到着したところだ。

私と虎はロンドンでアマガエルに出会った。

「人間と虎が仲良くお散歩か？ゲロゲロゲロ！」

アマガエルは私たちを嘲りながらも懸命にその場でピョンピョンと跳ねていた。虎が尋ねる。

「貴様はそこで何をしているのだ？」

「見て分らんか。」

「分らんな。」

「見当もつかん。」

私も虎に加勢する。すると、アマガエルは思ってみない答えを口にした。

「おいらは月に行こうとしてるのだ。」

「月？」

アマガエルは懸命に跳ねている。そのはるか上空にはまん丸のお月さまが爛々と輝いている。

「一体、いつから貴様はそこで跳ねているのだ？」

虎は珍しい物でも見るかのごとく尋ねた。

「生まれて初めて月を見た時からさ。」

「届かぬと知って続けておるのか？」

「何言つてんだい？あんだ。おいらは日に日に月に近づいてんだぜ。そこに月見草が咲いているだろ。」

アマガエルの隣には雪のように白い月見草が咲いている。アマガエルは跳ねながらも続ける。

「初めて月に行こうとした時はその月見草の半分の高さも飛べなかった。でも、毎日ジャンプをしているうちに、高く跳べるようになってきたんだ。見る！今じゃこの月見草の2倍の高さまで飛べるんだぜ。」

そういうアマガエルは確かに月見草を軽々と飛び越えていた。しかし、その高さは私の膝にも達していない。私はアマガエルが哀れに思えてきて、どんなに頑張っても月には行けないと諭そうとした。

「アマガエルよ。聞いてくれ。たとえ、お前が100年跳ね続けたって」

「やめろ！」

虎が私の言葉を遮った。

「月に向かって跳ねたこともない貴様や俺にとにかく言う権利はない。」

私は虎の言葉にすっかり納得してしまった。

「それは、確かにその通りだな。」

私と虎は跳ね続けるアマガエルに別れを告げ、ロンドンを後にした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5307r/>

旅？

2011年10月7日17時24分発行